（別紙1）　　2019　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0790300685		
法人名	株式会社　あいの里		
事業所名	大槻町　けやきの里		
所在地	〒963-0201　福島県郡山市大槻町北ノ山22－3		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和2年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念の「お客さまに対して誠心誠意のケアにつとめ、地域の方々とのふれあいを通じ、お客さまの満足と信頼を得る」を念頭に置き、入居者様、そのご家族様、地域の方々がけやきの里を利用することにより、幸せな気持ちになれるように、誠心誠意のケアにつとめています。また、地域の方々のご協力を頂きながら、地域に密着した事業所となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

1. 事業所では散歩・買い物・外食やドライブ・小旅行等、日常的に外出の機会がある。また、事業所の地域交流室では毎週、地域の高齢者が集まる「いきいき百歳体操」が行われ、利用者も参加している。ボランティア（語り部・蕎麦打ち・ハンド、フットマッサージ等）の訪問もあり、利用者が地域とつながりながら、暮らし続けられるよう支援されている。
2. 食べる事が利用者の一番の楽しみであることから、献立には利用者の好みを取入れ、季節感のある食事を提供している。職員間で話し合いながら利用者の持っている能力を活かし、買い物・下準備・盛り付け等、食事関連の作業の中で役割づくりがされている。料理の上手な職員が多く、他事業所の10周年記念行事の際には、法人からお手伝いを依頼されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際、基本理念を唱和し、共有している。また、管理者より職員に対して基本理念の共有のため勉強会をした上で実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を反映した法人基本理念を定め、事業所内に掲示してある。理念実現のため毎年目標を作成し、毎月のユニット会議や全体会議で唱和し、職員間で共有しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のいきいき体操を行ったり、敬老会に招待したり町内の旅行に参加したりしている。また、ご本人が生まれ育った地域の話やお店に行ったり、馴染みの場所を大切にしている。	事業所の地域交流室では、未就学児の交通安全教室や地域の高齢者も入居者も参加するいきいき体操を毎週実施したり、町内会の新年会・忘年会が開催されている。また、好天時に利用者は近隣の緑道を散歩しながら、近隣の人達と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が来られたときや、入居者様と散歩に行った際に地域の方に相談されることはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、推進委員の方より意見を頂き改善できるよう話し合いをしている。	運営推進会議は定期的に開催されており、事業所の現況・活動・事故・ヒヤリハットを報告し、委員からは質問や意見が出されている。地域の高齢者が外に出る機会を作って欲しいと意見が出され、事業所でいきいき体操を毎週行う事になった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス相談員の方が定期的に来られ、お話をしている。また、地域包括支援センターと一緒になり、小学校に行き高齢者体験のお手伝いなどをしている。	市の担当者へは利用者の介護保険の更新手続きや運営状況の報告で連絡を密にとり、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、毎月話し合い、施錠を含め、日々身体拘束を行わないケアを行っている。また、身体拘束適正委員会を立ち上げ会議の際に身体拘束に当たる行為をしてるかどうかを話し合っている。	身体拘束等適正化の指針を作成し、身体拘束適正化委員会を毎月、ユニット会議の時に実施し、「不適切ケアチェックリスト」で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。研修会等により、身体拘束による弊害の理解を深めている。日中、玄関の鍵はかけていない。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を行い、スタッフ同士注意を払いながら、虐待を行わいケアを心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関することを学ぶ機会を持ち、入居者様に必要かどうか考えながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、または改定時など変更があったところを説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて参加された際に意見や要望などを管理者、スタッフ、その他の推進委員へお話をされている。また、来所されたご家族様からも意見など聞き、プランに繁栄したり、日頃の生活に繁栄したりしている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を把握するとともに、家族等の面会時・電話連絡時・運営推進会議や行事出席時に職員が積極的に意見や要望を聴くよう努めている。出された意見等は会議等で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を設けている。また、毎月の会議等にて意見交換など行っている。	日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。日常業務、職員会議や個別面談の中で意見等を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。職員は家庭状況に応じて、勤務体制が選択出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整備し、やりがいなど向上心が持って働ける職場作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力を見極め、内外部研修に積極的に参加できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で各協議会などに所属し、情報交換など行える環境を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には、実態調査としてご本人様の困っている事や要望などを確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在、ご家族さまで何か困っている事はないか、お話の中で確認しながら、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の時に、本当にサービスが必要かご本人様も含め、専門職とのお話もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安を取り除き、日々の生活の中で、ご本人のできる事を見極め、一緒に行いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や季節の行事の中で、ご本人とご家族の方が過ごせる時間を大切に提供している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が生まれ育った場所や、生活していた場所を大切にし、その場所の話をしたり、誕生会等で昔食べた料理をお出ししたり、思い出をテーマにして誕生日をお祝いしている。	利用者の家族・友人・知人等の訪問の時にはお茶を出し、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。また、馴染みのお店に買い物に行ったり、家族が泊まりに来て一緒に過ごしたり等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のふれあいを大切にし、時には間に入りお互いが関わりあえるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にし、何かあればすぐに相談の対応ができるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、ご本人の想いを把握しながらケアに努めている。また、プランにご本人・ご家族の意向を汲みながら作成している。	日常ケアの中での些細な会話から利用者の意向把握に努めている。また、困難な場合は表情や仕草等から察したり、家族から意見や情報を得て、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで生活してきた歴史を大事にし、それを基に日々の支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り、その人らしい生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、職員がご本人・ご家族とお話をしてそれをみんなでお話をして、課題を見つけ出しプランを作成している。	利用者・家族の思いや利用者の身体状況の変化をもとに、担当者がモニタリングを行い、ユニット会議での職員の意見を取入れ、計画作成担当者が介護計画を作成している。定期的に計画の見直しを行い、状況変化時は随時見直しを行い現状に合った計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に記録し、職員同士共有しながら実践に活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の希望や要望に沿ったケアを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人にあう地域資源を考えながら日々安全な暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人の希望により、かかりつけ医を決めている。また、かかりつけ医と良好な関係が築ける様努力している。	利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っており、従来からのかかりつけ医への通院は家族の協力を得ており、日頃の様子を書類に書き渡し、通院結果は、家族から報告を受けている。また、協力医の訪問診療、緊急時の往診等の結果は、電話や来訪時に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と日々の情報を交換し、入居者様の体調変化に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、お見舞いに行ったり病院の看護師、相談員との情報交換を行い、スムーズに退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に重度化指針を説明し、話し合いをしてどうするか検討している。また、その時になった時にも再度、重度化指針を説明し確認している。	入居時に事業所の「重度化対応、終末期ケア対応指針」を利用者・家族に説明し、同意を得ている。また、利用者の重度化に伴い再度、看取りについての意思確認を行い同意書を得て、看取り計画書の基、家族・医師・看護師・職員等が話し合い方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との避難訓練の時に心肺蘇生法などを確認している。		,

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災が起きたときの避難訓練を実施している。また、夜間に起きたときも想定しながら行っている。	年2回消防署立会いの基、夜間想定の総合防災訓練を実施している。また、地震、風水害等災害による避難訓練を年2回実施する計画を作成しているが、計画通りの実施には至っていない。地域協力体制は、現在、町内会との調整中で、非常時用備蓄品の準備は、法人本部が準備中である。	運営推進会議開催時に一緒に訓練する等地域の方の理解と協力が得られる体制づくりをして欲しい。また、非常時用備蓄品等の準備も本部との話し合いを進め即急に準備に取り組んで欲しい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には常に敬語で丁寧な声かけや言葉かけで対応するように心がけている。	常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切にした言葉遣いに心がけている。「不適切ケアチェックリスト」を活用し、日頃のケアを振り返っている。また、利用者の記録等は鍵付きのキャビネット等で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人のやりたい事や自分で選択できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方一人ひとりのペースを大切にし、一日の過ごし方やご希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり毛染めや化粧を楽しんでもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に食材の買い物に行って調理を行い、食事を共にするという一連の流れで支援できるよう努めている。	利用者と職員が食材の買物に出かけ、調理を行い、食事が楽しめるよう一緒にテーブルを囲んでいる。日頃の会話や家族情報から利用者の嗜好を把握し、メニューや行事食、外食等に採り入れ、利用者に喜ばれている。料理の上手な職員が作ってくれる美味しい食事は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を一人ひとり毎日チェックし状態等の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを行い清潔や誤嚥を防止を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人それぞれ排泄のパターンや状態が違うのでそれぞれで対応している。また、尿意便意がある方はトイレでできるように支援している。	利用者個々の生活習慣、排泄チェック表を参考にし、排泄パターンを把握し、プライバシーに心がけ、トイレへの声掛けや誘導支援を行っている。出来るだけ、トイレでの排泄が継続出来るよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではなく、水分量や乳製品、運動などで便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入りたいときにお風呂に入れるように支援している。	入浴は、利用者の生活習慣や希望、意向に沿って日時を決め支援している。床ずれ防止、清潔保持等を考慮し、希望に沿って毎日や夜間帯の入浴も出来、入浴が楽しいものになるよう支援に努めている。また、ゆず、菖蒲湯も採り入れ、季節感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度、湿度管理やその方にあった寝具類など、安眠して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等を理解し、追加や変更等があればチームで情報を共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が張りのある生活ができるように、好きなものを食したりできるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方が買い物に行きたいと希望があった時はその都度ドライブや外食など外出する機会を設けている。	事業所の計画により、花見、アルパカ牧場や猪苗代湖へドライブに出かけている。また、利用者個々の希望に合わせ、散歩や買物、外食等に出かけ、気分転換やストレス解消を図っている。家族の協力を得て一緒に通院、外食、紅葉狩り等へ出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っており、ご本人持ちのお金はないが、買い物などに行って好きなものや欲しいものを買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは自宅へ電話したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のかざりを取り入れたり、好きな音楽を楽しんでいただいたり、居心地の良い環境づくりを務めている。	リビングや廊下には、季節が感じられる飾り物や写真、観葉植物等が飾られ、落ち着いた雰囲気をかもし出している。畳の間には神棚に神様が祀られ、手を合わせている利用者もおり、気持ちの安らぐところとなっている。清掃は行き届き、温度、湿度、換気等の管理は職員が行い、刺激的な音、光、色等は感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や玄関先でお茶をしたり過ごせるような居場所つくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	お部屋はそれぞれ個室になっており、お部屋にはなじみの家具や写真を置いたり、その人らしいお部屋作りとなるよう配慮している。	居室には、利用者なじみの寝具・テレビ・電灯・椅子・テーブル・タンス・衣装ケース等が持ち込まれ、また、家族の写真、自作の作品が飾られ、ゆったりと落ち着いて生活が送れる環境が整えられている。居室の誤認を防ぐため、入り口に名札を下げ対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋は居室となっており、自立した生活ができるように支援している。		